



グローバル富裕層・ウェルネス インテリジェンス・2026年7月

ロンジェビティ（健康長寿）は 新たなラグジュアリー

今後10年の富の創出は、エリート層の支出を「モノ」から「健康」へと向け直しつつあります。本レポートでは、不動産、ホスピタリティ、そして世界最大級のラグジュアリーブランドの戦略を再構築するこの潮流を、データとともに読み解きます。

データ提供元：UBS・Altrata・BCG・Sotheby's International Realty・Global Wellness Institute・Savills・Knight Frank

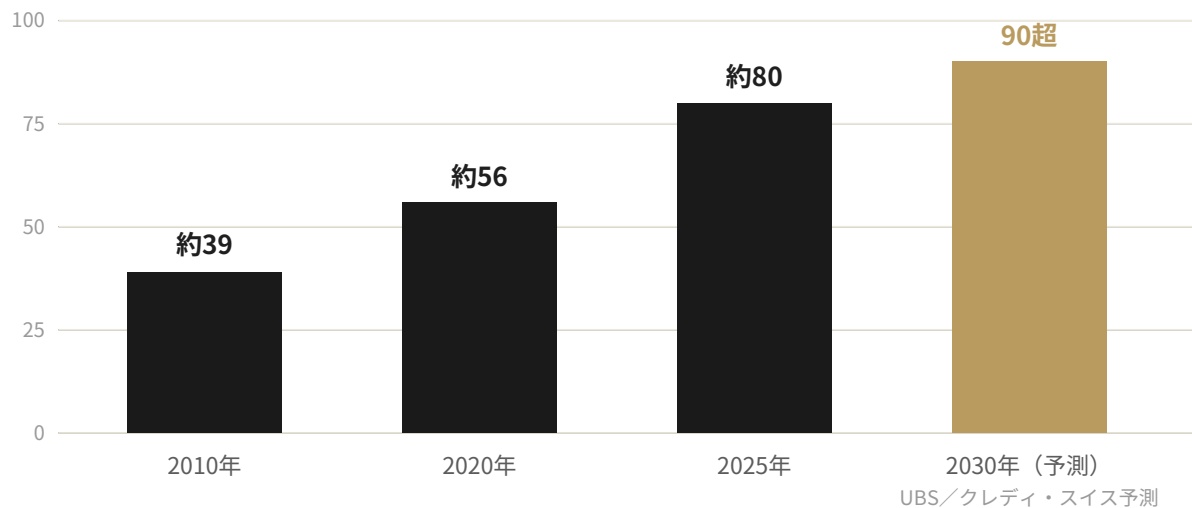
第1部・富の軌跡

今後20年、ミリオネアとビリオネアはさらに増加する

富の創出エンジンは減速するどころか、加速しています。UBSグローバル・ウェルス・レポート2026によれば、**2025年の世界の個人資産は10.8%増**と近年で最速の伸びを記録し、**年間約100万人（1日あたり約2,680人）の新たな米ドル・ミリオネア**が誕生しました。うち44万人超が米国人です。世界のビリオネア（保有資産10億ドル超）は**3,302人**となり、**1年間で383人（+13.1%）増加**しました。

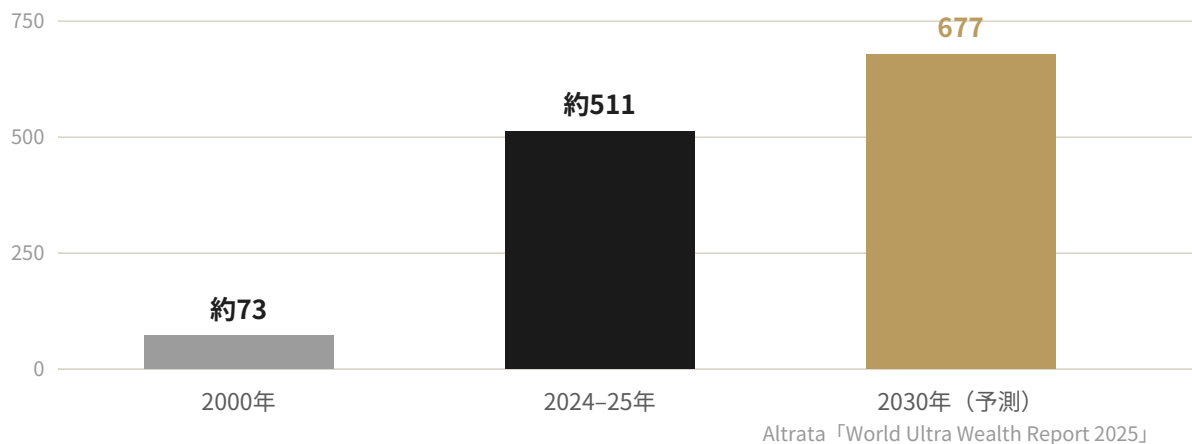
約9,000万人 超 2030年の世界のミリオネア予測 （2025年の約8,000万人から増 加、UBS／クレディ・スイス予 測）	+31% 超富裕層（資産3,000万ドル超）は 2030年に676,970人へ増加見込み （Altrata）	3,302人 2026年時点の米ドル・ビリオネア 数。前年比+13.1%（UBS）	7倍 2000年以降の世界の超富裕層人口 の増加率。成人人口の7倍のスピー ドで拡大
--	--	--	--

図1・世界のミリオネア人口：実績と予測（単位：百万人）



世界のミリオネアは2030年までに9,000万人超へ（2025年の約8,000万人から増加）。年率2.3～3.4%の成長を意味します。Sotheby'sは2029年までに新たに500万人のミリオネアが誕生すると別途予測。米国は2,500万人を突破、中国は1,000万人に達する見通しです。

図2・超富裕層（資産3,000万ドル超）人口（単位：千人）



Altrataは、2025年上半期から2030年にかけて超富裕層人口が31%（166,160人）増加すると予測。アジアの伸びが最も強く、成長率上位10都市のうち4都市がインド（ベンガルール、ムンバイ、ハイデラバード、デリー）です。一方、北米は引き続き最大の超富裕層地域であり続けます。

次の波はどこから来るのか

富の拡大は地理的にも広がっています。BCGの2026年グローバル・ウェルス・レポートは、**2030年までに新興国市場で12兆ドルの金融資産が新たに創出されると予測**。インドだけで2兆ドル超、ブラジルで1兆ドル、メキシコで6,000億ドルが加わり、これらの市場で100万人以上の新たなミリオネアが誕生する見通しです。ミレニアル世代とZ世代は、テック起業・株式・暗号資産を通じ、過去のどの世代よりも速いペースでミリオネア層に参入しています。

留意点：同じUBSのレポートは、調査対象56市場の大半で平均資産が急増する一方、中央値は低下した

ことも指摘しています。つまり富の成長は上位層に集中しています。しかしラグジュアリー、ウェルネス、不動産事業者にとっては、まさにこの集中こそが対象市場を拡大させる要因となります。

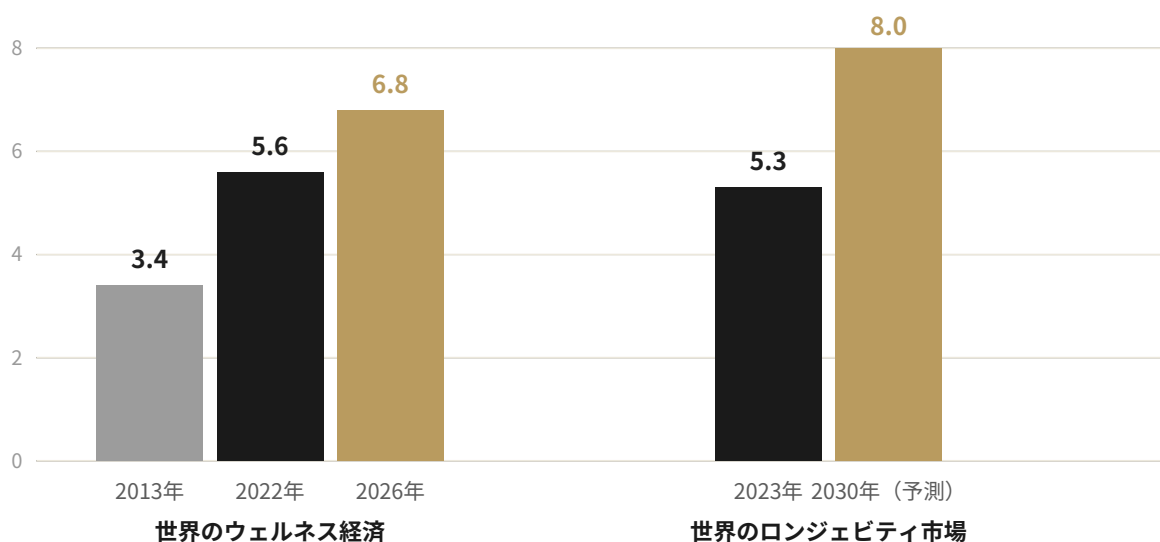
第2部・超富裕層が次に求めるもの

大いなる再配分：モノから健康へ

2026年のあらゆる富裕層調査で最も明確なシグナルは、エリート層の支出が従来のステータス消費財から、健康・ウェルネス・ロンジェビティ（健康長寿）へと向け直されていることです。

60% の富裕層ラグジュアリー消費者（米・英・仏）が2026年にウェルネス支出を増加（Karla Otto調査）	64% が従来のファッションから健康最適化へとラグジュアリー予算を積極的に再配分	8兆ドル 2030年の世界ロンジェビティ市場予測。2023年の5.3兆ドルから拡大（UBS）	6.8兆ドル 2026年の世界ウェルネス経済規模。10年前のほぼ2倍（Global Wellness Institute）
--	--	--	---

図3・ウェルネス経済とロンジェビティ市場（単位：兆米ドル）



出典：Global Wellness Institute（ウェルネス経済）、UBSグローバル・ウェルス・マネジメント（ロンジェビティ市場、Sotheby's International Realty 2026年中期ラグジュアリー展望より引用）。

「ロンジェビティ・プランニングは今や、遺産設計やポートフォリオ配分と並ぶ、超富裕層の人生設計の一部となった。ウェルビーイングは長期投資と見なされている。」

ー ラグジュアリー・ウェルネス業界専門家、Robb Report誌（2026年）

「癒し」から「測定可能な成果」へ

需要の質は、贅沢な癒しから精密な健康管理へと変化しています。一流デスティネーションの顧客はもはや「どのトリートメントを予約するか」ではなく、「このプログラムは6か月後に自分の身体をどう変えるのか」を問うようになりました。需要は、診断・バイオマーカー追跡、予防美容、ホルモン・更年期プログラム、睡眠科学、体系的なロンジェビティ・プロトコルに集中しています。男性市場は最も成長が速いセグメントの一つで、ウェルネスを優先する男性は36%増加。高級クリニックの四半期ごとのプロトコル（1回1,000～5,000ドル）が高い需要を集めています。ウェルネスは感情面・身体面・社会面の「リターン」をもたらすものと認識され、もはや任意の付加物ではなく、ラグジュアリーエコシステムの中核に位置づけられています。

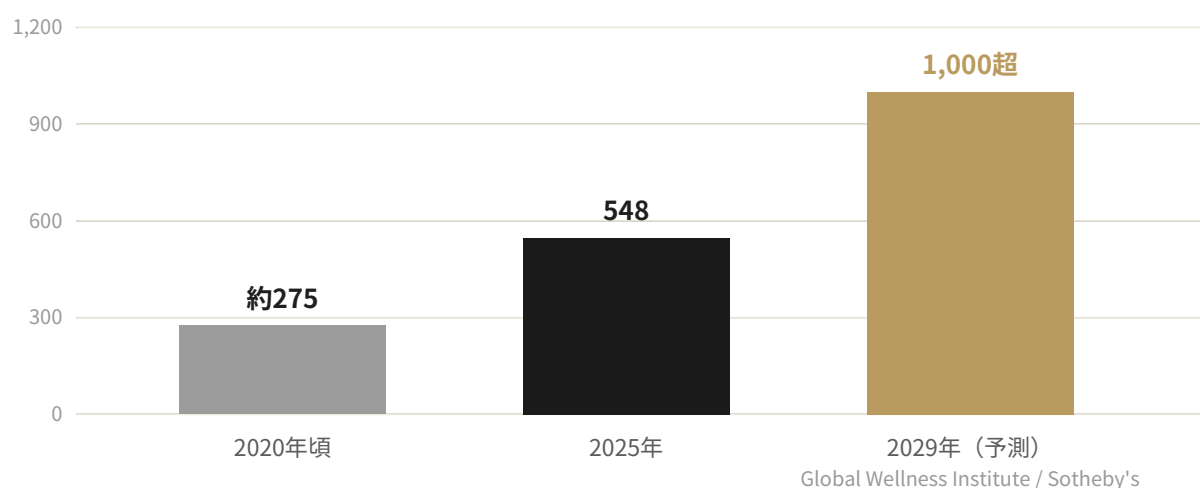
第3部・ウェルネス資産としての不動産

ウェルネス不動産：ウェルネス経済で最も成長の速いセクター

Sotheby's International Realtyは2026年中期ラグジュアリー展望において、ロンジェビティを高級不動産の最重要トレンドと位置づけました。超富裕層の購入者は、住まいとコミュニティを「**第一のウェルネス資産**」——リゾート級の健康インフラに囲まれ、エイジング・イン・プレイス（住み慣れた場所で歳を重ねること）を可能にする長期投資——と捉えるようになっていきます。

10-25% ウェルネス不動産が通常の高級住宅に対して獲得する価格プレミアム	2倍 ウェルネス不動産への購入者の関心は5年間で2倍以上に (Sotheby's)	38% の1,000万ドル超物件担当エージェントが「エイジング・イン・プレイス／健康重視設計」を成長要因として指摘	62% が「ライフスタイル」を購入動機の第1位に。税制（60%）や経済安定性（53%）を上回る
--	--	---	---

図4・ウェルネス不動産の市場規模（単位：十億米ドル）



ウェルネス不動産は現在5,480億ドル規模で、ウェルネス経済の中で最も成長の速いセクターです。5年

間で規模は2倍超となり、2029年には1兆ドルを突破する見通し（1.1兆ドルとする推計も）。Technavioは2022～2027年に5,759億ドルの市場拡大を別途予測しており、その最大の牽引役は高級住宅需要です。

実際の商品はどのような姿か

ブランデッド・ウェルネスレジデンス。Savillsによれば、世界のブランデッドレジデンス開発件数は近年2倍以上に増加。ターンキーのラグジュアリーな暮らしとウェルネスサービスの統合への需要が牽引しています。Six Senses ResidencesやOne&Only Private Homesといったプロジェクトは、「リカバリ・ロンジェビティ・精神的明晰さを軸に設計された「パーソナル・パフォーマンス・エコシステム」として構想されています。

フルサービス型ウェルネスコミュニティ。コスタリカのニコヤ半島やメキシコのシアン・カアン生物圏保護区など、温暖な沿岸部の「ブルーゾーン」的立地に展開する常駐スタッフ付き高級コミュニティは、健康・フィットネス・社会的つながりのプログラムを一体化しています。Sotheby'sが指摘するとおり、新築のラグジュアリー物件の多くはもはや「リゾートに住む」感覚であり、この水準のウェルネスが新築の標準になりつつあります。

戦略としてのエイジング・イン・プレイス。1,000万ドル超物件を扱うエージェントの約4割が、エイジング・イン・プレイスを成長要因として報告。購入者は住宅を5年で売買する資産ではなく、20～30年の「健康プラットフォーム」として評価しています。同時に高級不動産は市場全体をアウトパフォームしており、米国の超富裕層は2020～2025年に資産を約58%増やす一方、不動産保有は59.9%拡大させました（Coldwell Banker）。

第4部・ラグジュアリー業界の転換

LVMH、L Catterton、そしてウェルネスへの資本シフト

このトレンドにおけるLVMHの中核的な投資ピークルが**L Catterton**です。LVMHのL CapitalとCattertonの統合により誕生したプライベートエクイティ会社で、LVMHとベルナール・アルノー氏のGroupe Arnaultが共同出資しています。現在、**300超の消費者ブランドに約400億ドル**を運用し、旗艦ファンドは2025年5月に**過去最大の67.5億ドル**でクローズしました。近年の投資案件は、さながらウェルネス&ロンジェビティ・ファンドの様相です。

時期	案件	ウェルネス投資テーマ
2023年10月	Thorne HealthTech — 完全買収（NASDAQ非公開化）	パーソナライズド・ヘルス、サプリメント&診断。L Cattertonは「消費者の健康・ウェルネス優先度の高まり」を持続的な構造トレンドと明言
2025～26年	Stenders — 過半数出資	プレミアム化を背景に年率約20%成長する高級ボディケア
2026年5月	Saint Bella Group — 戦略的提携	富裕層向けプレミアム産後ケア・ハウスホールドケアのエコシステム
2026年6月	Remedy — 2,000万ドルのシリーズA主導	皮膚科医開発のクリニカル・スキンケア。臨床研究に資金を投入
2026年	Squared Circles — 4,000万ドルの出資を予定	今後3年で少なくとも5つの健康・ウェルネスブランドを立ち上げるインキュベーター

図5・「富からウェルネスへ」のフライホイール



サイクルの各段階が次の段階を強化します。エリート層の富の拡大がウェルネス需要を生み、需要がラグジュアリー資本を引き寄せ、資本がウェルネス・インフラ（レジデンス、ホテル、クリニック）を建設し、インフラが「健康長寿こそがステータス」という価値観を定着させ、需要をさらに押し上げます。

他のラグジュアリーブランドも追随するか——構造的にはイエス

流通シナジー。L Cattertonがウェルネスブランドを買収すると、そのブランドはLVMHのグローバルな小売・D2C網に接続されます。競合他社が再現したくなる構造的優位性です。

成長の所在。ラグジュアリー消費全体は約1.5兆ユーロで横ばいですが、成長はほぼすべて体験型分野に集中しています。ラグジュアリー・ウェルネスツーリズムだけで1.2兆ドルを超え、2035年まで年率13.2%で拡大する見通しです。ウェルネス支出を増やす消費者の64%は、既存予算の振替ではなくラグジュアリー予算全体を拡大すると回答——ウェルネスは市場のパイそのものを広げています。

エコシステムはすでに動いている。ラグジュアリー・ホスピタリティ（Aman、Six Senses、Soneva、One&Only、Four Seasons）は、ロンジェビティクリニック、バイオハッキングラウンジ、メディカルウェルネスプログラムを施設に組み込みつつあります。Clinique La Prairieはドーハとドバイに都市型「ロンジェビティハブ」を開設。機関投資家の資金もこの分野に流れ込み、デビッド・ベッカム氏のウェルネスブランドIM8はロンジェビティサプリメント事業のために**10億ドルの成長資金**を確保しました。Kering、Richemont、Estée Lauder、大手ホテルグループも、控えめで成果重視・ロゴレスの「クワイエットラグジュアリー」型ウェルネスへの展開を続けると見られます。

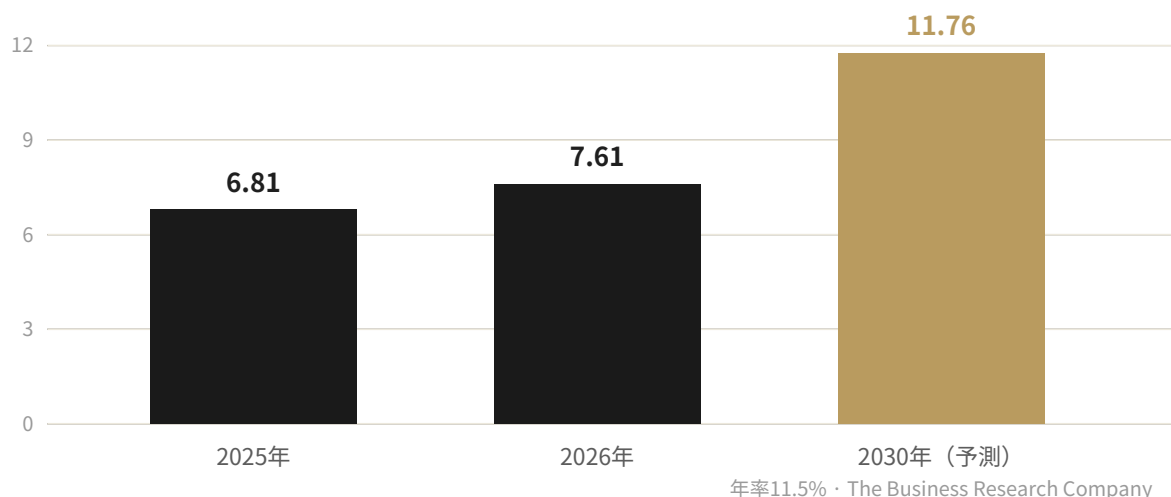
第5部・ロンジェビティホテル・ブーム

ロンジェビティホテルの将来需要

5つ星ホスピタリティと予防医療クリニックを融合させた「ロンジェビティホテル」は、いまや正式に統計が取られる市場カテゴリーとなり、あらゆる予測が右肩上がりを示しています。

11.5% ロンジェビティホテル市場の年平均成長率（2026～2030年、The Business Research Company）	118億ドル 2030年の市場規模予測。2025年の68.1億ドルから拡大	+19.8% 世界のウェルネスツーリズム旅行者数の年間増加率。10.3億人（2023年）→12.3億人（2024年、GWI）	2.4兆ドル 2035年のウェルネスツーリズム市場予測。2025年の9,900億ドルから拡大（年率9.3%）
---	---	--	--

図6・ロンジェビティホテル市場（単位：十億米ドル）



2025年時点で最大の市場は欧州、最も成長が速いのはアジア太平洋地域。主要事業者にはClinique La Prairie、Lanserhof、SHA Wellness Clinic、Chenot Palace Weggis、Grand Resort Bad Ragaz、VIVAMAYR、Palazzo Fuggi、COMO、Kamalaya、RAKxa、The Farm at San Benitoが挙げられ、Four Seasonsシンガポールなど主流の高級ホテルもパーソナライズド・ロンジェビティサービスの導入を始めています。

2030年以降の需要を支える5つのドライバー

1・構造的な支出の追い風。ウェルネスツーリズムは2025年の9,900億ドルから2035年に2.4兆ドルへと2倍超に拡大する見通し。特に高級リゾート＆スパへの需要は2033年まで年率8.5%で成長し、Chiva-Som、Lefay、ヒマラヤのAnandaなどロンジェビティプログラムを持つ施設が成長を牽引すると見られています。

2・スパメニューから医療プログラムへ。成長の源泉は、ロンジェビティ診断・バイオハッキングサービス、パーソナライズド栄養・ゲノムウェルネスプラン、AIによる健康モニタリング、長期滞在型・成果重視型プログラムです。ゲストが求めるのはマッサージではなく、バイオマーカーで検証できる成果

です。

3・地理的拡大。中東では高級ロンジェビティクリニックの開業が相次ぎ（Clinique La Prairieのドーハ・ドバイ都市型ハブなど）、アジア太平洋は最速成長地域に。医療と高級旅行を組み合わせた「メディケーション（med-cation）」が新市場へモデルを広げています。

4・人口動態が追い風を増幅。寿命が延びる富裕高齢層に加え、最適化文化の中で育ったミレニアル世代のラグジュアリー購入者（1,000万ドル超物件エージェントの66%がミレニアル顧客の増加を報告）が同じ商品に収斂しつつあります。ホテル内に設けられる会員制・エビデンス重視の「ロンジェビティクラブ」は、リピート性が高く高マージンの需要を取り込む形態として拡大しています。

5・ホスピタリティの収益構造にも合致。メディカルウェルネスのゲストは滞在が長く、消費額はレジャー客の数倍、閑散期にも予約し、プロトコル周期で再訪します。業界はロンジェビティを次の主要な収益ドライバーと位置づけており、関連するロンジェビティ製品市場も2035年まで年率約10.4%で拡大する見通しです。

第6部・展望

10～20年の視点

富：ミリオネア人口は2030年頃に9,000万人を突破し、その後も年率2～3.5%で複利的に増加すると見込まれます。超富裕層はさらに速いペース（年率5%超）で拡大し、アジア——とりわけインド——が新規参入者の大きな割合を占めるでしょう。現在3,302人のビリオネアは、市場好調の年には2桁成長を続けており、大規模なシステミックショックがない限り増加が続くと考えられます。

支出：エリート層の限界的な1ドルは、モノからヘルスパン（健康寿命）へと回転を続けます。ロンジェビティ（2030年に8兆ドル）、ウェルネス不動産（2029年に1兆ドル超）、ウェルネスツーリズム（2035年に2.4兆ドル）、ロンジェビティホテル（年率11.5%）はいずれも、ラグジュアリー市場全体の成長率を上回ります。ステータスの基準は「何を所有しているか」から「どれだけ長く、どれだけ健やかに生きるか」へと移行しつつあります。

ラグジュアリー業界：LVMH／L Cattertonのウェルネス事業構築は例外ではなく、業界のテンプレートです。実証済みのプレミアム支払い意欲（不動産で10～25%、クリニックの四半期プロトコルで1,000～5,000ドル）、縮小ではなく拡大するラグジュアリー予算、そして流通シナジーの組み合わせにより、今後20年にわたりラグジュアリーブランド、ホテルグループ、プライベートエクイティによる多角化が続くことがベースシナリオと考えられます。

注：2030年以降の数値は現在のコンセンサス予測からの外挿であり、市場サイクル、政策、調査機関ごとの手法の違いにより大きな不確実性を伴います。本レポートは情報提供を目的としており、投資助言ではありません。

出典・データ注記

1. UBS「Global Wealth Report 2026」— 2025年の世界資産+10.8%、新規ミリオネア約100万人（1日2,680人）、ビリオネア3,302人（+13.1%）、56市

場の大半で資産中央値が低下。

2. UBS／クレディ・スイス予測 — 2030年にミリオネア9,000万人超（2025年約8,000万人）、米国2,500万人超、中国約1,000万人。
3. Altrata 「World Ultra Wealth Report 2025」 — 超富裕層は2030年に676,970人（2025年上半期比+31%）、2000年比7倍。
4. BCG 「Global Wealth Report 2026」 — 2030年までに新興国で12兆ドルの資産創出。インド+2兆ドル、ブラジル+1兆ドル、メキシコ+6,000億ドル。新規ミリオネア100万人超。
5. Sotheby's International Realty 「2026 Mid-Year Luxury Outlook」 — ロンジェビティが最重要トレンド。ウェルネス不動産需要は5年で2倍、価格プレミアム10～25%、エイジング・イン・プレイス38%、ライフスタイル重視62%、2029年までに新規ミリオネア500万人。
6. Global Wellness Institute — ウェルネス経済6.8兆ドル（2026年）、5.6兆ドル（2022年）、3.4兆ドル（2013年）。ウェルネス不動産5,480億ドル→2029年に1兆ドル超。ウェルネスツーリズム旅行者数10.3億→12.3億人（2023～24年）。
7. UBSグローバル・ウェルス・マネジメント（Sotheby's引用） — ロンジェビティ市場5.3兆ドル（2023年）→8兆ドル（2030年）。
8. The Business Research Company / Research and Markets 「Longevity Hotel Market Report 2026」 — 68.1億ドル（2025年）→76.1億ドル（2026年）→117.6億ドル（2030年）、年率11.5%。欧州最大、アジア太平洋最速。
9. EHL Insights / Hotel Online 「Wellness Tourism Trends 2026」 — ウェルネスツーリズム9,900億ドル（2025年）→2.4兆ドル（2035年）、年率9.3%。Clinique La Prairieのドーハ・ドバイ拠点。
10. Grand View Research 「Luxury Hotel Market Report」 — 高級リゾート＆スパ需要は年率8.5%成長（2026～2033年）。Chiva-Som、Lefay、Anandaを例示。
11. Karla Otto 「2026 Wellness Insights Report」 — 富裕層ラグジュアリー消費者の60%がウェルネス支出を増加、64%がラグジュアリー予算全体を拡大（米英仏300人調査）。
12. Luxury Lifestyle Magazine / Global Wellness Summitトレンドレポート2026 — 64%がファッションから健康最適化へ再配分、男性のウェルネス優先+36%、四半期プロトコル1,000～5,000ドル、ウェアラブル870億ドル（2025年）→960億ドル（2026年）。
13. Luxury Communications Council 「Longevity Is the New Luxury」 （2026年） — ラグジュアリー・ウェルネスツーリズム1.2兆ドル超、2035年まで年率13.2%。ラグジュアリー全体は約1.5兆ユーロで成長はほぼ体験型。
14. Savills 「Branded Residences Report」 — 世界のブランデッドレジデンス開発は2倍超に。
15. Coldwell Banker 「Global Luxury 2026 Trend Report」 — 米国超富裕層の資産+58%（2020～25年）、不動産保有+59.9%。
16. L Catterton / LVMH関連報道（PRNewswire、Cosmetics Business、Business Wire、Access Newswire、Retail Dive） — Thorne HealthTech買収（2023年）、Remedy 2,000万ドル（2026年6月）、Squared Circles 4,000万ドル、Stenders過半数出資、Saint Bella提携（2026年5月）、67.5億ドルの旗艦ファンド（2025年5月）、運用資産約400億ドル・300超ブランド。
17. ISHC 「Forever Guests」 （2025年） — ロンジェビティ製品市場は2035年まで年率約10.4%。IM8の10億ドル調達はCosmetics Business報道。